

令和5年度事業報告

渋谷ファッション&アート専門学校

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、ようやく学校運営は日常の体制に戻り学外での実習・見学などの授業も制約なく実施できるようになり、両課程とも定められたカリキュラム、学事はすべて予定通りに実施しました。

1. 5年度在籍者数

○服飾専門課程：在籍者数・卒業者数等

	年度初め 在籍者数	卒業・進級者数	休学者数	退学者数	除籍者数
1年	19名	12名	3名	3名	1名
2年	15名	13名		2名	
合計	34名	25名	3名	5名	1名

・退学理由：経済的理由1名、進路変更3名、出席不良1名

※退学の理由は、表面に現れたことだけでなく複合的です。休学、除籍も同様で、高校の時から学校・生活面でコロナ禍の影響を受けてきたこともあり、コミュニケーション力不足の者がみられ、退学、休学の潜在的な要因となっています。また、国の修学支援（給付金）制度も十分に機能しているとは言い難い状況です。

○文化専門課程：在籍者数

()=留学生

	学科名	年度初め 在籍者数	年度末 在籍者数	退学者数
週4日通学	美術表現科	29(27)名	28(26)名	1(1)名
	造形表現科	24(23)名	24(23)名	0(0)名
	表現研究科	39(13)名	37(13)名	2(0)名
	小計	92(63)名	89(62)名	3(1)名
週2日通学	美術表現科	4(0)名	4(0)名	0(0)名
	造形表現科	4(0)名	4(0)名	0(0)名
	表現研究科	14(0)名	14(0)名	0(0)名
	小計	22(0)名	22(0)名	0(0)名
合計		114(63)名	111(62)名	3(1)名

・退学理由：進路変更2名（内1名は留学生）、美術専科への移籍1名

2. 校務・教育

○服飾専門課程

本年度からコース制を廃止し、1年後期以降、“多能職”の人材育成とともに学生の学ぶ意欲や要望にフレキシブルに応えることもねらいとして、学生が個々で選択できる授業科目を大幅に増やしました。この制度では、学生自身が将来やりたいことを明確にイメージし、そのために2年前期ではカリキュラムの8割となる選択科目から選択、後期は将来をみすえて卒業制作・卒業研究のために何を制作するか、何を研究するかを自分で考えて取り組んでいくことになるため、1年生の段階から科目選択、就職についての面接、指導を重ねました。

4年度から授業編成に余裕をもたせて新たに設けたファッション関連講座の授業を中心に、他の授業においても、企業や現場で活動している方を講師として招き、現在の業界動向のレクチャー、企業とのコラボレーションなどを実施するほか、社会的な活動をしている方による講演やワークショップ、展覧会の見学ほかレクリエーションなども実施してきました。

本年度もこれを継続し、学内および学外間の人的交流の機会や、文化を体感する場をできるだけ設定しました。主な取組みは以下の通りです。

- ・ユニクロ道玄坂店の協力のもと、ユニクロの専用アプリ StyleHint (スタイルヒント) を使用して、自分が普段着ているアイテムとユニクロ店頭にあるアイテムを組み合わせ、実践的なコーディネートにチャレンジして発信
- ・メーカーとのスクールコラボで、学生がデザインをしたマグカップを製品として渋谷ロフトなどで販売
- ・「環境とファッション」、「サステナブルファッション」をテーマとしたイベント『ファッション レボリューション』に参加し、展示と講師解説により学習
- ・昨年からの授業の中で行っていた“服のたねプロジェクト (学内で綿花を種から育て1着の服へ、アパレル生産の環境負荷を考える)”の最後として、育てたコットンからとった糸を素材としたTシャツを完成
- ・“ディオール展”(東京都現代美術館)、“イヴ・サンローラン展”(国立新美術館)、服飾文化資料館、アクセサリー・ミュージアムなどで鑑賞学習
- ・渋谷郷土博物館から、「渋谷の現代像」をテーマのもとでの「渋谷・原宿の最新ファッション」のコーナー展示についてのファッションコーディネートの依頼を受け、学生のコーディネート提案のものが展示
- ・お台場バーベキュー会などを実施

●資格試験取得状況

パターンメイキング技術検定	3級・1名
ファッションビジネス能力検定	3級・6名
ファッション色彩能力検定	3級・7名
洋裁技術検定	初級・2名、中級2名
パーソナルカラー検定	3級・8名、2級1名

●就職状況

就職活動の意識づけをする昨年度中はコロナ禍の余韻もあって、学生たちの取組みの自覚が乏しく、本年度にはいって求人状況が回復してもその意識が続きました。あきらめずに3月まで厳しく指導・支援を行いました。結局内定率は73%でした。

○文化専門課程

(週4日通学)

前年度から34名増の92名(再入学34名を含む)が入学しました。増加分は主に留学生で、卒業生が中国のSNS(Weibo)で当校の指導内容を高く評価するメッセージを発信したことがきっかけとなりました。留学生の多くは母国で美術系大学を卒業した学生であるためレベルが高く、日本語の習熟度も高いことにより、結果的に日本人学生と切磋琢磨する活気のある授業が行われました。

美術表現科では課題ごとの前提講義や資料を充実させ、より分かりやすい授業を目指しました。年度初めに行っている各コース共通の基礎授業については、学生と教員が交流する場にもなっていることから、美術表現科では5年度も継続して行いましたが、造形表現科ではより早く専門的な課題や大学院受験のための大作に取り組みたいという学生や教員の声が上がったため、解剖学概論、人体デッサン、塑像、色彩構成などに厳選し1ヶ月半に短縮して実施しました。結果的に学生の集中力も増し、特に日本画コースでは1作品の制作に時間がかかることから、前年度と比べると作品の仕上がりが目に見えて向上しました。美術表現科との差別化も明確となり、本校への入学希望者にとっても学科を選択しやすくなりました。

表現研究科では、これまでは個人スペースでの自主制作や巡回指導が中心でしたが、4年度に実施した高度なクロッキー・デッサン授業や一堂に会しての講評会が好評だったため、5年度も引き続き実施しスキルアップを目指しました。学外での活躍は5年度も目立ち、独立展、新制作展、国展、現代童画展、全国大学版画展など、学生自身が積極的に応募し、多数が入賞・入選しています。

学校行事については、10月に行われた学園祭は、夏休み前から説明会を行ったこともあり学生の積極的な参加とこれまでにない盛り上がりが見られました。授業作品の発表に留まらず、自主制作作品の発表や販売へも広がっています。3月の修了制作展は、学生数が増えたことや、全体の作品レベルが上がったことにより見応えのある展覧会となりました。

スペースCTCは5年度も有効活用し、修了制作優秀作品展、学園祭観客賞展ほか授業で制作された作品を中心とした展覧会を12回開催しました。美術館での作品鑑賞や動物園でのスケッチなどの学外授業は、学生数が増えたことによる引率の難しさもありましたが、逆に教育普及プログラムの利用など可能性も広がり、今後も内容を工夫しながら続けていきます。

●留学生の進学

入学した63名の留学生(内7名は再入学生)の国籍は中国60名、韓国1名、台湾1名、デンマーク1名でした。ほとんどが進学希望者であり、27名が美術系大学院、大学、専門学校へ進学し、21名は本校へ再入学し令和7年度の大学・大学院進学を目指すことになりました。進学率は43%に留まりましたが、初の博士後期課程への合格、そして武蔵野美術大学、多摩美術大学、女子美術大学などの有名美術大学への合格が増えており、全体的なレベルアップが見られました。

※留学生の進路

大学院(博士後期課程)進学	1名
大学院(博士前期課程)進学	12名
大学進学・編入	7名
専門学校進学(デザイン系)	7名
本校再入学	21名
本校修了(帰国)	12名
退学(自己都合により帰国)	1名
就職	2名

(週2日通学)

週2日通学(彫刻コース・版画コース)は再入学生が多く、学生数の増減が少ない状況でしたが、5年度は彫刻コースへ4名が新入学しました。「東京・彫刻・学校」でインターネット検索すると当校が上位にあがることもあり、「東京で彫刻を学ぶのであれば本校」という知名度も上がりつつあります。版画コースでは、週4日通学との合同講評会などを行って交流を深めるとともに刺激を与え合い、新鮮さを失わない作品が制作されました。大学版画展や公募展にも出品され、入選者・入賞者を輩出しています。両コースともに工房での作業が中心となり、その設備とスペースは限られていますが、入学希望者も増えていることから、今後はカリキュラムや設備の使用方法などに工夫が必要となります。

3. 美術専科

○美術専科 令和5年度受講者数

受講日	定員	受講者数(前期)	受講者数(後期)
金曜日	25名	18名	22名
土曜日	25名	22名	22名
内両曜日	—	12名	14名

開設して2年が経ちました。週末の1日のみ受講したい、公募展に出品するための大作を制作したい、幅広い技法を習得したいという学生のニーズを取り入れ、週4日通学のカリキュラムと差別化することにより、後期には前年度と比べ7名増加となる延べ44名が受講しました。増加分の内訳は、他校の閉講による移籍が4名、週4日通学からの移籍が1名、週2日通学修了生の復帰が1名、インターネット検索が1名でした。

開設当初は選択講座制に対して戸惑う声もありましたが、現在では各自が自由に選択し、自主制作時間とのバランスを取りながら、自身に合ったカリキュラムを作ることができています。特にクロッキー・デッサン、抽象画講座、ガラス絵の受講を希望する学生が多く、年度末に行ったアンケートでも高評価を得ています。また、学園祭や修了展など、文化専門課程の行事への参加を促すとともに、年間8日程度ある第5週金曜日と土曜日などを利用したオムニバス形式の特別講座を企画することにより交流の場を設け、制作の幅を広げたり、マンネリ化しない工夫もしました。

4. 公開講座

○公開講座 開講講座数および受講者数

年度	時期	開講講座数	受講者数
5年度	春講座	41	435名
〃	夏講座	41	433名
〃	秋講座	42	450名
〃	冬講座	42	431名

公開講座は6年度末で終了することが決定したため、講師や受講者への説明、および他のカルチャースクールへの移籍準備を進めました。5年度末において42講座中11講座の移籍と1講座の閉講が決定しており、6年度春講座より徐々に講座数が減少することになります。ただし、水彩画やクロッキー・デッサンなど、受講生12名以上の大規模講座は、他に変わる設備を持つカルチャースクールが少ないこと、他校とは異なる専門的な講座を望むこと、さらに当校での運営方法への満足度が高いこともあり、13講座が当校にて期限まで継続開講することになりました。

5年度は新規の講座は開設しませんでした。単発での屋外スケッチ、座学、スペースCTCでの展示など、既存講座の講師の協力を得ながら新鮮さを失わないように運営しました。5年度には8講座がスペースCTCで作品展示を行い、集客も多く好評を得ています。これは最終年度も継続する予定です。

最終年度も、各講座の運営とスムーズな移籍に尽力するとともに、当校の文化専門課程や美術専科への移籍に興味を持つ受講生には積極的にアプローチしていきます。

5. 建築専門課程

令和7年度からの開設を目指し、学科名を“建築クリエイター科”として、開設目的、学科コンセプト、カリキュラム、講師陣、教室はじめとする設備、備品の整備、その他求められる要件について論議、検討の上、認可申請を行いました。建築士試験の受験資格に必要な指定科目については国交省の当該機関から確認許可を受け、東京都へは現在認可申請中です。

申請作業に並行して、募集のためのWebサイト、入学案内パンフの作成、募集計画の策定を進め、年度明け直後からのPR活動、認可後の速やかな募集活動に備えています。

以上